

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	有限会社厚生会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	平成24年11月28日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2470501574-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2470501574-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成24年10月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設に、協力医療機関である、ゆり形成内科整形があり、緊急時にも直ぐに受診が出来、医療度の高い利用者にも、安心して過ごしていただける様な体制になっている。誕生会や夏祭り等のレクレーションや各種研修会を通じて、入居者、職員、地域の方々との交流を深めていくようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一建物の1階には母体である、ゆり形成内科整形があり、デイサービスも併設され、2階には有料老人ホームも併設されている。利用者の体調、症状に応じて病院への入院も可能であり、医療関係者と介護職員との意見交換、連係がよくされていると思われ、それが利用者や家族の安心感につながっている。また利用者と職員間のコミュニケーションがよく、円滑な介護体制であると思われた。なお、施設の立地がよく、公共交通機関やタクシーの利用で訪問しやすく来訪者から喜ばれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設では、名札の裏に携帯し、ホール等に掲示してある用紙を確認しながら、『こころの癒しを介護の心得』を理念とし、日々介護に取り組んでいる。	理念である「心の癒しを介護の心得・・・」を職員は理解し、利用者とのコミュニケーションを多くとりながらケアを実践している。職員もケアを通じて心を癒されることで笑顔が多くみられ、相互関係がうまくいっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加し、夏祭り等の行事を回覧等で地域住民に発信している。	地域行事の運動会や文化祭等に参加しているが、利用者のADL低下により参加者が少なくなっているのが現状である。事業所の行事として夏祭り、寄席、二胡の演奏等で地域と交流する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設は取り組んでいない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、自治会長及び家族様より、意見や要望、質問をいただき、サービスの向上に努めている。	地域に高齢者世帯が多いため、災害時の取り組み等の意見交換が活発にされている。会議メンバーの意見から、包括支援センターの保健師による熱中症、〇157等、適宜研修を行っている。なお事業所が一時避難場所に依頼されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ訪問したり、担当者には運営推進会議等を通し、相談や助言をいただき、協力関係を築いている。	運営推進会議の議題の打ち合わせや介護保険更新手続き、制度の解釈等について、質疑や意見交換をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者、管理者及び介護職員が、介護保険法指定基準における禁止対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者が常日頃から看護と介護の拘束の相違点などを実践の場で説明し、職員はそれを理解し共有認識を図っている。動き回る人をベッド4点柵で拘束せず、量対応を行い安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、施設内研修等を行い、管理者や職員は、日々虐待防止に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等を利用されている方が増えてきており、より深い理解を得る為、資料をファイルし、施設内研修を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者又は介護支援専門員が対応し、契約の締結、解約時に充分納得して頂ける様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様よりの意見等は、面会時や意見箱等で受け入れる機会を設け、全職員で検討し反映させている。	家族等の訪問面会が多く、出された意見・要望・相談は検討し運営に反映している。来訪してもらうことが一つの方法と考え、利用料の支払い、制度の手続き等気軽に話し合いができる雰囲気心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、意見や提案を検討し反映させている。	ユニット会議は月1回程度、職場会議は議題があれば適宜開催し、提案や意見を検討し運営に反映している。管理者は実践の場で現場職員の思いや意見を積極的に聞き活かしている。	職場内で適宜に話し合われているが、全職員で議論する場が少ないように思われる。できる限り定期的に職場会議を開催し、全職員で意見交換される場の設定が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人一人の力量を把握し介護技術向上の為に研修に参加する様勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会議等に参加し、同業者間での情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や相談時に、本人が困っている事や要望、不安な事を確認し、入所時のアセスメントシートに活用し、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や相談時に、家族が困っている事や要望、不安な事を確認し、アセスメントシートに記入し、職員が把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様から、考えや想いを聴き、小さな事でも話し合いを持ち、納得していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、気軽に話を出る関係を築き、利用者の身体状況に応じた家事の手助けをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員のみならず、全員で協力し、支援していく関係を築く様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の地等へは体調を留意しつつドライブツアー等で出かけている。又、面会時間の制限をせず、都合の良い時間に来所して頂ける様配慮している。	手紙を毎月家族に郵送し、担当職員より近況報告をしている。生家や元職場の訪問、寺参りなどは家族対応が多いが、利用者の希望があれば事業者としても、ドライブを兼ねて出来る限り一緒に行くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立せず、お互いがよりよい関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様からの退所後の入所相談については随時対応している。 また、サービス終了後も広報誌の送付や催し物の案内をし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者の思い、暮らし方の希望や意見を聞き、把握に努め、困難な場合は検討し、出来るだけ希望に沿えるよう努力している。	理念を基本とし、日々関わる時間を重要視して意向の把握に努め職員間で共有している。意思疎通が困難な方には家族の意見を聞くと共に質問の工夫、表情や行動から思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関からサービス利用までの経緯、経過等の情報収集をし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活を把握し、日々の変化を見逃すことなく現状把握に努めており、センター方式を併用し活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、現状報告及び意見交換を行っている。また、必要に応じて、本人、家族、関係者と話し合い、それぞれの意見等を反映し、現状に即した計画を作成している。	利用者を担当制にし、ユニット会議で意見交換を行い情報を共有している。モニタリングは毎月実施、計画の見直しは家族の意見も取り入れ、3カ月毎に行っている。担当者会議には毎週火曜日、医師・理学療法士の出席があり、意見をもらいケアの向上に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の記録、業務日誌に記入し、変化等あれば、申し送り時に報告・検討し情報共有をし、実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ、同一建物内の他サービスと連携等し、柔軟な対応を行っている。医療面においても併設のクリニックと連携し健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ、民生委員やボランティア、警察、消防等他機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、以前よりのかかりつけ医と事業所との良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。又、緊急時は当施設の協力医療機関を利用している。	同一建物の1階は病院で、形成内科整形があり、全員、協力医がかかりつけ医となり毎週往診がある。皮膚科・歯科は往診があるが、眼科受診は家族の協力を得ている。緊急時も適切な医療を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に留意し、変化がある場合には、協力医療機関の医師、看護師に連絡し、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう情報交換を行い、施設の環境整備を行い受け入れられるよう努力している。 入院になった場合は、出来る限り面会に行き、情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期の利用者がいる場合、日々をよりよく過ごして頂くよう、当施設で出来る事、出来ない事を見極め、かかりつけ医と共に在宅医療も視野にいれチームとして支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りに関する指針の説明を行い、本人・家族の同意を得ている。事業所としては最期までお世話したい気持ちはあるが、医療が必要になれば家族の意見をもとに専門職にゆだねる等、状況によって判断し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え、人工呼吸等の応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会等で火災や地震等の災害時の対応を話し合い、昼夜問わず、利用者が避難できる方法を職員が身につけ、日頃より地域住民の協力が得られるよう働きかけている。	3月に地震と火災を想定した訓練、5月には抜き打ちで職員通報連絡訓練を実施した。11月には地震を想定した訓練計画を立て、職員の対処方法、時間等の再確認を行う予定である。また地域の方には利用者の見守りについて協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念にある、プライバシーの確保に基づいて、声掛けや行動に注意し対応している。	人格を尊重し、どんな訴えに対しても避けることなく、一人ひとりの会話を大切にしている。排泄時もプライバシーや自尊心を損ねないように、言葉かけや対応に注意している。呼称については本人に確認し、希望の呼び方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた声掛けや説明を行い、自己決定し、納得しながら暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、個々の希望に沿って利用者個人のリズムで過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身嗜みやお洒落ができるように支援しており、希望に応じて訪問理容を活用したり、馴染みの店に家族や職員と出かけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、テーブルを拭く等の個々の状態に応じた準備や片付け等を手伝っていただいている。	栄養士が昼・夕食の献立、調理、食材購入を行っている。糖尿病、腎臓病の方は病院より治療食の配食サービスを受けている。利用者は野菜の下準備、片づけ等職員と一緒にを行うことを日課としている。	食事は利用者と職員が別であったが、食事介助が必要な方も少なく、時間に追われることも見られなかったため、家庭的な対応をする意味からも職員と利用者が一緒に食事される工夫を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて、粥・キザミ・ペースト食を提供しており、食事、水分摂取量を毎食後確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないように毎食後利用者個人の能力に応じた、うがいや義歯洗浄が行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターン、習慣を活かし、気持ちよく排泄できるよう支援している。また夜間帯におむつを着用している方でも能力や状況により、昼夜問わずトイレ誘導で対応している。	排泄チェックとトイレ誘導を個別にしている。。ADL低下と共に尿意はあるが間に合わず、失禁するためハビリパンツやパットの利用者が増えてきているが、尿意を訴えない方に、時間毎に声掛けし誘導したら、トイレで排泄ができるようになった	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防と対策の為、飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。申し送り、個人記録等で個々の管理を行い、状況に応じて、緩下剤等の使用や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場にてゆったりと入浴していただいている。体調不良時等に、入浴を希望される利用者はその都度各ユニットの浴室を使用し対応している。	週2回、午前中の中入浴を基本とし、希望があれば随時入浴も可能である。浴室はあるが、1階に併設のデイサービスの大浴場がゆったりするので利用しており、器械浴利用の方は3名である。入浴を拒否される方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、居室で休んでいただく等の対応を行うと共に室温管理にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごしていただける様、一人一人の楽しみ、趣味、手仕事を個別に生かしていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的な外出だけではなく、利用者のその日の希望に沿って外出できるよう支援している。また、施設周辺の散歩時等、地域の人々と挨拶や話をし、交流が持てるよう支援している。	車椅子利用者が多く、全員参加の日常的な外出は困難になっているが、個々の希望を聞き、散歩やドライブ、近くのスーパーや衣料品店等の買い物を一緒に楽しんでいる。また年間行事計画を立て「花見・花火・祭り・外食」等、外出の機会をつくり支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金を持つ大切さを理解しており、お金を所持したり使えるよう支援している。 買い物の希望者にはその都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向を尊重し、可能な限り電話をしたり手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は電灯色を使用し、穏やかにすごしていただけるよう配慮している。 テーブルの上等に季節の花等を飾る事により、季節感を出し、気持ちよく過ごしていただける様配慮している。	玄関、居室には季節の花が置かれ、ユニット間を自由に行き来できるようになっている。掃除が行き届いており、清潔感がある。また、職員と一緒に作った季節に応じた作品や貼り絵が飾られ、明るい雰囲気である。屋上には職員と利用者が一緒に育てた朝顔が綺麗に咲き、また、トマトの収穫もあり楽しみの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーを設置しており、ゆったりと過ごせる空間があるため、利用者同士の語らいの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っていたものや好みの物を本人や家族と相談しながら持ち込んでいただき、家具は居心地良く過ごせる様自由に配置していただいている。	ベッド、床頭台、チェスト以外は利用者の思い出の品や造花、手紙、写真などが飾られ、どの部屋も明るく整理整頓され、居心地よく過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置されており、安全に生活・移動が出来る空間が確保できるよう工夫している。		